

# Secret Love

**New Edition**

紫峯蓮舞

・・・詩集第二弾。この中の二編ほど、僕の実体験に基づいて書いたものがあります。  
オ・タ・ノ・シ・ミに!!

紫峯蓮舞

## Secret Love - New Edition - 目次

1. Secret Love
2. ずっと 一緒だよ
3. 恋の シグナル
4. 僕は シンデレラ
5. 信じて いいよ
6. Christmas With You
7. ハートの ブローチ
8. 恋人 どうし
9. 君の そばで
10. もう 会えない
11. あの頃の 君は
12. 心の 境界線
13. 他の 誰より
14. Lonely Lover ～僕だけの君に～
15. Power ～二人の心～
16. 君を 信じて
17. Just ～ありがとう～
18. もう一度 君と

## 1. Secret Love

---

### *Secret Love*

誰にも 秘密だよ 何たってこれは 二人きりの  
初めてのランデヴー 突然だったから 君はビックリさ  
夜の街灯りだけが たったひとりの 目撃者

見つめあい 確かめあえば 弾け飛びそな 胸の高鳴り  
分かってるくせに 頷いたくせに 君は瞳を閉じたのさ  
突然だったから ビックリしたよ もうこの後は 急降下

煮えたぎるよな 愛の海の中へ ダイブしようか  
抱き締めるだけじゃ ご不満ですか 君はワガママお嬢様  
ニがい薬を飲むように 僕は 君に キスヲシタ

“まさか これは 君なりの復讐（リベンジ）？”

## 2. ずっと 一緒だよ

---

### ずっと 一緒だよ

初めてさ こんなに 嬉しい気持ちになれたのは  
まだ この感じに慣れないけど これが 恋なんだって  
“ありがとう” 君に・・・ これからも ずっと一緒だよ

打ち明けた瞬間 僕は まるで抜け殻さ だけど  
愛しい君が 今 ここにいる 君の言葉は 夢じゃなく  
“ありがとう” 僕に・・・ すべてを 受け入れて

世界の 何もかもが 僕らを 幸せにしてくれる  
あの時 感じたんだ 君の笑顔が 柔らかな日差しに滲む  
“ありがとう” 二人に・・・ これからも ずっと一緒だよ

手をつないで 足を踏み出せば カチカチ時計の音が  
そんな気がして 僕は こんなに青い 空を見上げて

### 3. 恋の シグナル

---

#### 恋の シグナル

夢じゃないよね 僕は ずっと シグナルを送り続けていた  
それが 君をやっとつかまえたんだ 少し うつむいて 君は  
僕に 微笑んでくれた Dance 'n Bounce ハートが 騒ぐ

もう 手を伸ばせば いつだって 君に 届きそうさ  
“待ってるから 君も シグナル送ってよ” それが  
僕の 告白だった 思い出せば くすぐったいけど

でも 君の恋のシグナルは 僕をしっかりと つかまえてたよ  
大丈夫みたいだね 僕らは ほら 耳を澄ませば  
いつしか 二人のときめきは 同じビートを 刻んでる

やっと逢えた 君に誓おう もう このリズムは崩さない  
この手は 絶対 離さないから

## 4. 僕は シンデレラ

---

### 僕は シンデレラ

今日は 君との 初めてのデート 待ち合わせ場所は  
僕のイチオシ 完璧なセッティング のはずなのに  
相棒の 黒いウォッチが ヤキモチ焼いて だんまりさ

ヤバい もうすぐ時間だって 胸の奥の時計が ベルを鳴らすよ  
新調した靴を履いても 寝グセはそのまま 僕は シンデレラ  
魔法が解ける前に 君のもとへ ガラスの靴は ないけれど

“ゴメンね 待った？” 君は 僕を見て笑う  
ホントに魔法が解けたみたいに 着ていた服が 乱れまくって  
おまけに相棒 ちょうど12時で 止まったた

“シンデレラって 知ってる？” 君は 時計を見て笑う  
もう一度 魔法をかけて カボチャの馬車は ないけれど

## 5. 信じて いいよ

---

### 信じて いいよ

素直になれない まだ僕は 君が そこにいる事  
互いを優しく 受け入れた事に まだ 心が追いつかない  
信じていいよ ずっと そう 君が呟いた

君には かなわないよ 何もかも 見透かされて  
僕のすべてを 分かってくれる もう悩むのは よそう  
信じているよ ずっと そう 肩を抱き寄せた

素直になれたら すぐ君に 約束しよう  
これから先も その笑顔を 守り続けると  
信じていいよ ずっと そう 君に呟いた

この世界 寄り添う君 手の温もりが 僕を諭すように  
信じていいよ ずっと そう 爽やかな風に乗せて

## 6. Christmas With You

---

### *Christmas With You*

冬の君は 素敵だね ツリーに映る 小さな影  
あんなに 楽しそうな笑顔 やっぱり ワクワクするよ  
もうすぐ クリスマス 君の手を そっと握った

僕らが 再会したのも たしか 今くらいだった  
ショーウインドウに 映るふたり 振り向く君は まるで  
スローモーション 君に駆け寄り そっと告白

“クリスマス 一緒に・・・” それしか 言えなかった  
あの日も 楽しそうな笑顔 それしか 思い出せなくて  
覚えている？ 君に聞いてみた “クリスマス 一緒にね”

そう言って 君は ゆっくり歩き出す  
振り向きざまに いたずらっぽく微笑んで



## 7. ハートの ブローチ

---

### ハートの ブローチ

今日の君は いつもと 様子が違って見えた  
どこかソワソワして 口数も 少なくて どうしたの今日は  
僕も 戸惑ってしまうよ どうしてなの

“はいコレ おめでとう” そっけなく君は 僕の手の中に  
何かをそっと 握らせる そういえば今日は  
僕の 誕生日だった 指を広げれば そこには

君が やっと微笑んで おそろいだよって つぶやいた  
きらり輝く 胸ポケット 本当だね ありがとう  
その何気なさが 愛おしくて ハートのブローチを もう一度

そっと 握り締めて 今はポケットに しまっていよう  
すぐそばにいる 君の手を 取りたくて・・・

## 8. 恋人 どうし

---

### 恋人 どうし

僕と君が こうなるって事は 運命だったのかな  
初めて出会った時は ふたり あまり話せなくて  
だけど今は 黙ってたって 何だって分かるのさ

いつまでも 恋人どうし ベンチに 並んで座りながら  
離れられない 離したくない 過ぎてゆく時間も もったいなくて  
しばらく こうしていたいから 君を 何気なく腕まくら

君だけが色づいて もう誰も見えなくなって 僕のハートは  
スーパーボールさ 慌てて口を押さえるよ 吐息が くすぐったくって  
幸せそうな 君の寝顔 こわさないように そっと

可愛いおでこに キスをしたら 太陽が頬を染めて  
遠ざかるカラスに 告げ口してたよ

## 9. 君の そばで

---

### 君の そばで

ふたり こうしてもう 一年たつね 気の弱い僕は  
君に なかなか 本当の気持ち 伝えられなかったけれど  
ほら でも今は こんな風に そばにいるよ

毎日が 明るくなるのさ ただ 君といるだけで  
気持ち沈む 曇り空 泣きたくなる 雨の日だって  
ほら でも今は こんな風に 強くなれたよ

恋をしたら 世界が変わる なんて 誰かが言った  
自分を守るだけで 必死だった僕が 君に出会えて気づいた  
ほら今 僕は こんな風に 誰かを守ろうとしてる

君が そばにいてだけで ずっと 君のそばで・・・

## 10. もう 会えない

---

### もう 会えない

街角で 君を見かけたよ 相変わらず元気そうだった  
別れたつもりじゃないけれど どうしても 勇気がなくて  
僕は 不釣り合いだと ある瞬間(とき) 思ってしまったから

今でも 君の事は 大切に思ってるよ もちろんさ  
ただ その思いが強すぎて 君には 重荷だったかもしれない  
ふとした横顔に それを感じてしまったから 怖くなったんだ

“ごめん” でも君は “どうして?” ただ 首を振る  
君を送る 駅のホーム 最終電車が 来る前に  
“大好きだよ 君の事 でも もう会えない” ごめんね・・・

うつむき むせぶ あの日の横顔が 今もまぶたに 焼きついて

## 11. あの頃の 君は

---

### あの頃の 君は

海を見に 二人で行った あの夏 君は  
海が 大好きだったね いつも はしゃいでた  
かけがえのない 思い出だったよ あの頃の 君は

悲しくなんかなかったさ 幸せそうに笑ってる 君を見てると  
嫌なこと全部 忘れられたよ 君は僕に 手を振っていた  
ささやかな 思い出だったよ あの頃の 僕の

夏が終わる 楽しかった夏が 君と二人の  
大好きだった海に 別れを告げて 君は・・・  
何もかも 思い出だったね あの頃の 僕らの

微笑んでいた君の 大好きだった君の  
あの頃の君の 思い出をさらって 夏が・・・

## 12. 心の 境界線

---

### 心の 境界線

ボーダーライン 乗り越えて 君の領域へ  
全部ひっくるめて 抱き締めたいけど まだ僕を  
分かっちゃくれない 君は心で そっぽを向いて

何がいけないのかな 信じておくれよ 僕の心を  
心配しないで 越えさせて 君の領域へ  
大好きだから 愛してるから ホントの君を 知りたいのさ

すべてを さらけ出して 一緒に歩いて行こうよ  
君は 聞こえないフリして 一人で歩きだしたんだ  
“なら 先に越えさせて あなたの領域へ” 立ち止まって眩くのさ

君は 僕を抱き寄せて 熱い吐息で にじり寄る  
くちびるで ボーダーライン 乗り越えて

## 13. 他の 誰より

---

### 他の 誰より

初めて 君を見たんだ 踊り歌う 可愛らしい姿は  
僕の 思っていた通りだったね 少し 寂しげな笑顔で  
君は 気づいていなかったけれど 僕は嬉しかった

まわりの空気に流されず 自分だけを心に強く  
そんな君だから ずっと見守っていたくなる 出来るなら  
もっと近くで そうしたかったけれど 僕は嬉しかった

やっぱり君だけは 何があっても 忘れるなんて出来ない  
やっぱり僕は 他の誰より 君の事 好きだから

まわりの空気に流されず 自分だけは君だけを  
ずっと いつまでも 遠くからだって 見つめていたいよ  
君が 気づいていなくても 僕は構わないから

## 14. Lonely Lover ～僕だけの君に～

---

### *Lonely Lover* ～僕だけの君に～

君に やっと逢えた 僕には それが信じられなかった  
まさか こんな出会いになるなんて 嬉しいはずなのに  
笑えなかった 君が あまりに遠くて あまりに寂しくて

君は どう思っていたの 僕に 気づいていたのなら  
尋ねる事すら出来ず 堪えきれず 視線をそらす  
悔しさを 心の奥に沈めながら 疑いと・・・

初めて知った 君の声も その笑顔も このまま  
すべて思い出に 嬉しいはずなのに 怖かった 今にも  
消えてしまいそうな気がして 手も振らず 立ち去るのさ

最初で最後 だなんて事 信じたくない  
さよなら・・・ 僕だけの君に そう告げて



## 15. Power ～二人の心～

---

### Power ～二人の心～

君は 気づいてたかい 僕の心に 他の人とは ちょっとだけ違う  
僕の心に でも きっと気づきはしない 幸せが Powerを奪う  
手を伸ばさなくても 君がそこにいる 当たり前みたいに

近頃は とんと無口だね 気づいてほしいな 僕の心に  
足りないんだ 君のPowerも必要なのさ そうすれば 今が輝くよ  
初めて出会った あの日の事 さあどうぞ 思い出してごらん

仕方ないんだ ずっとずっと 君だけを 僕の小さな小さな心の中で  
見守っていたのさ だから今こそ 愛しい君よ その心のPowerを  
僕に ちょっとだけ 分けてほしいな そうすれば 気づくはず

当たりの幸せが けっして 当たり前じゃないんだって  
もっともっと お互いが 好きになるよ きっと

## 16. 君を 信じて

---

### 君を 信じて

何かが違う 今までの君とは ふとした仕草さえ  
危うく揺れるようで 君の事が 信じられなくなりそうで  
優しげな笑顔も 冷たく見える どうしたの この頃

思い過ぎしだと 笑い飛ばせたら そう信じられたら でも  
心が ついていけないんだ あの日の君が 忘れられなくて  
今までの君が かすんでゆくよ お願いだ 手を握らせて

確かめたいから 君は 君だって どれだけ月日が経とうとも  
こんな僕でも 信じられた あきれた君の 顔がほころぶよ  
今までの僕は どうか忘れて これからの僕を 見つめていてほしい

少しうつむいて “私は私 ずっと同じだからね”  
そう言ってくれた君を 強く抱きしめて・・・

## 17. Just ～ありがとう～

---

### Just ～ありがとう～

ありがとう 君だけは 僕を裏切りはしなかった  
どんなに 時が流れても 二人だけは 一緒にと  
分かっていたよ 君が そうしてくれる事 ぜんぶ

初めて逢った あの時でさえ 君は  
すぐに僕の事 分かってくれたよね・・・やっと  
今までの心の傷を さらけ出して 微笑みで癒されて

知らず 頬をつたう涙 君の顔が にじんでる  
“心配ないよ” 僕は首を振る ただ 今この時が嬉しいだけ  
君の 揺るぎない その気持ちを 確かめられた事が

ただ そうしてほしい いつまでも 変わらず  
僕も 君を ただ 愛し続けるから・・・

## 18. もう一度 君と

---

### もう一度 君と

朝もやの森で 君が笑ってる・・・  
何も傷つかないで 純粋なままの君が 木漏れ日に包まれて  
頭を撫でて 頬を寄せて また 君の事 好きになって

やわらかな 朝の光 君がまどろんでる・・・  
葉っぱの雫を 指ではねながら ゆっくり息を吸って  
森の妖精と 何を話しているのかな とても 楽しそうだね

同じ この森で 君は 笑ってた・・・  
まるで夢の中のように 幸せそうに 君は 木漏れ日の中で  
手を振る君に 駆け寄って 耳元に そっとささやくよ

またいつか もう一度 ここに来ようね 僕と二人で  
もう一度 君と・・・